

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成 19 年 5 月 17 日 (2007.5.17)

【公開番号】特開 2004-318116 (P2004-318116A)

【公開日】平成 16 年 11 月 11 日 (2004.11.11)

【年通号数】公開・登録公報 2004-044

【出願番号】特願 2004-91316 (P2004-91316)

【国際特許分類】

G 0 3 F 7/004 (2006.01)

G 0 3 F 7/40 (2006.01)

H 0 1 J 9/02 (2006.01)

H 0 1 J 11/02 (2006.01)

【F I】

G 0 3 F 7/004 5 0 1

G 0 3 F 7/40 5 2 1

H 0 1 J 9/02 F

H 0 1 J 11/02 B

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 3 月 23 日 (2007.3.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

粒子径が $0.005 \sim 0.08 \mu\text{m}$ の範囲にある酸化物微粒子と、酸化物微粒子以外の無機粒子と、感光性有機成分とを含有する感光性ペーストであって、酸化物微粒子と有機成分の平均屈折率 N_1 と酸化物微粒子以外の無機粒子の平均屈折率 N_2 が次式を満たすことを特徴とする感光性ペースト。

$-0.07 \leq N_2 - N_1 \leq 0.07 \quad (N_2 > 1.65)$

【請求項 2】

有機成分の屈折率が $1.40 \sim 1.65$ 、酸化物微粒子の屈折率が $1.7 \sim 2.6$ である請求項 1 に記載の感光性ペースト。

【請求項 3】

酸化物微粒子がシリカ、アルミナ、チタニア、ジルコニア、イットリア、セリア、マグネシア、酸化亜鉛、酸化マンガン、酸化銅、酸化鉄、酸化ホルミウム、酸化鉛、酸化錫の群から選ばれた少なくとも 1 種類を含むことを特徴とする請求項 1 記載の感光性ペースト。

【請求項 4】

感光性有機成分がカルボキシル基を有するコポリマーであり、樹脂酸価は $50 \sim 150 \text{ mg KOH/g}$ であることを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の感光性ペースト。

【請求項 5】

酸化物微粒子以外の無機粒子が低軟化点ガラス $60 \text{ 重量}\% \sim 97 \text{ 重量}\%$ と平均粒径 $1 \mu\text{m} \sim 4 \mu\text{m}$ のフィラー $3 \text{ 重量}\% \sim 40 \text{ 重量}\%$ とを含有することを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の感光性ペースト。

【請求項 6】

低軟化点ガラスが熱軟化点 $450 \sim 600$ であることを特徴とする請求項 5 に記載の感光性ペースト。

【請求項 7】

請求項 1 ～ 6 のいずれかに記載の感光性ペーストを基板上に塗布し、フォトリソグラフィでパターン形成した後、焼成することを特徴とするプラズマディスプレイ用隔壁の製造方法。

【請求項 8】

請求項 1 ～ 6 のいずれかに記載の感光性ペーストを基板上に塗布し、フォトリソグラフィでパターン形成した後、焼成することを特徴とするプラズマディスプレイ用透明誘電体パターンの製造方法。

【請求項 9】

請求項 7 または請求項 8 に記載の製造方法により作成されたプラズマディスプレイ部材。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】感光性ペースト、プラズマディスプレイ用隔壁およびプラズマディスプレイ用透明誘電体パターンの製造方法ならびにプラズマディスプレイ部材